

# 研修を終えて

青森商業高等学校 小松田 優太

私にとってこのエネルギー研修会は、私を変えてくれた大きなバネとなりました。私はこの研修会で初めて日本から出ました。そのおかげで、研修会の前と後では自分の視野が広くなった気がします。この研修会に携わってくださったみなさんに感謝します。本当にありがとうございます。

私はこの研修会のメンバーに選ばれた時、嬉しい気持ちと不安な気持ちがありました。私のイメージでは、原子力は怖い。そんな気持ちがありました。しかし事前研修会で勉強したり、原子力発電所の現場に見学して原子力は怖くないと感じました。さらに、フランスやスウェーデンの原子力に対する考え方や取り組みを学びました。今の私の考えは研修会に行く前とだいぶ変化しました。また自然エネルギーについても研修会前とは違う考えを持ちました。フランス・スウェーデンの環境や町並みはとてもキレイだから出来るだけ二酸化炭素を出さないよう自然エネルギーの開発が進められていることを聞き、とても関心が持てました。

見学先で一番頭に残っているのは、ハンマルビー・シェースタードです。環境保護先進モデル地区と言われるその場所は、とにかく自然が多くきれいで、マンションがたくさん並ぶ住みやすそうな場所でした。町全体でエコに取り組んで、交通手段や仕事場なども設けている、その町で一生暮らせそうでした。環境に対してとても考えているスウェーデンだからできることだと感じました。青森にもこのような素晴らしいエコタウンができたらしいなと思いました。

海外の芸術や文化にも触れました。フランスでは世界遺産のモン・サン・ミシェル、ルーブル美術館、エッフェル塔、凱旋門、ノートルダム寺院、スウェーデンではストックホルム市内を見学して、初めて見るものばかりでいくらいでも飽きることがありませんでした。食べ物も初めて見るものばかりでした。トナカイの肉やカエルを食べたのはとても印象深いです。

フランス、スウェーデンの高校生との交流会でたくさんのこと学びました。フランス、スウェーデンの高校生はエネルギー資源や原子力についてとても考えていることに驚きました。ディスカッションの場面では、フランス、スウェーデンの高校生が自分なりの意見をどんどん手を挙げて発言していました。日本ではあまり見かけない場面でした。またほとんどの人が英語を使って会話していました。私は英語が得意ではなく、現地の高校生とのコミュニケーションがとても大変でした。英語の他にも、ラテン語やドイツ語、独学で韓国語などを

勉強していると聞いて、勉強の時限が違うと感じました。現地の高校生は一人一人個性があり、自分らしさの大切さを強く感じました。これもまた、日本人には無いことだと思います。エネルギーへの関心も英語が話せるのも、現地の高校生は国内ではなく常に世界のこととも考えているのではないでしょうか。

私がこの研修会で一番学んだことは、英語が必要であることです。青森県では津軽弁は通じますが、東京はもちろんフランス、スエーデンには言葉が通じません。その時に必要なのは世界の共通語の英語で自分はまだまだ力が足りないと痛感しました。また、仲間の大切さを改めて感じました。私は野球部に所属し、仲間の大切さを知っていたつもりでした。この研修会で出会った7人の友達は、趣味も部活もそれぞれ違い、最初はとても不安でした。しかし、今はいい仲間に出会えたと心から思います。研修会中はトラブルもあったけど、この仲間だからいつも笑顔で笑い飛ばせたと思います。これからもこのかけがえのない仲間を大切にします。

研修会の最初は、不安や恐怖心の気持ちが多かったけれども、今は充実感や喜び、思い出がすべてです。これからこのような体験はできないと思います。この経験を糧にしてこれから的人生に役立てていきたいです。

最後に、この研修会に携わってくださった青森商工会議所さん、東北エネルギー懇談会さん、北山さん、山田先生、通訳の小林さん、古垣内さん、博多さんにもう一度感謝します。本当にありがとうございました。